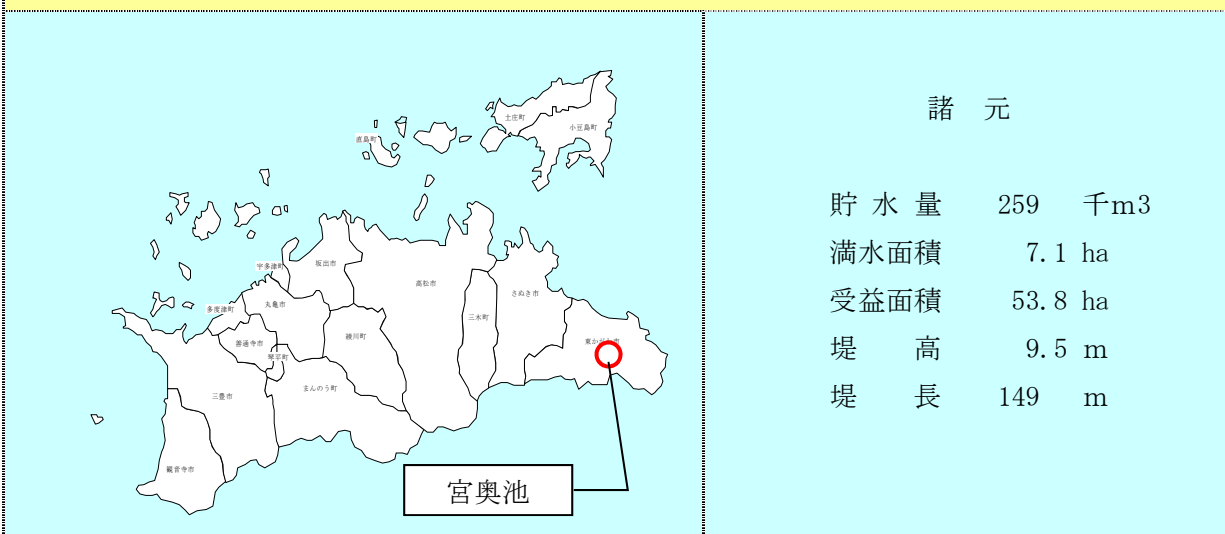


## 宮奥池 (みやおくいけ)



東かがわ市西山にある宮奥池の歴史は古く、鎌倉時代末期の延慶3年(1310年)に、別宮八幡宮の供御田の水源として築かれた放生池が始まりとされています。生駒藩政時代の文禄4年(1595年)には、下流の白鳥村五人組役が別宮八幡に「大池開証文の事」という誓約書を差し出して、白鳥村にもかんがい用水を送るための大池に拡張されました。その後、高松藩政時代の正保3年(1646年)に、県下で多くのため池を築いた矢延平六によって、今の宮奥池の姿に増築されました。

宮奥池は、池が在る福栄村よりも下流の白鳥村のかんがい面積の方が大きく、日照りの年にはよく水争いがあったと言われています。また、戦後の食糧増産時代にも水不足が生じるなど、長年にわたり、安定した水の確保が求められていましたが、香川用水の送水計画に追加編入され東部幹線水路の終点地となったことで、昭和53年6月に香川用水が導水され、その恩恵にあずかるとともに用水不足が解消されました。

現在は、東部幹線水路で宮奥池まで送られた水を、さらに県営引田支線で旧引田町まで送水する中継池としての役割を果たしつつ、静かな山里で豊かな水を湛えています。



宮奥池



香川用水宮奥池分水工